

台湾交流報告「『台湾河川日』イベント等への参加」

水環境・まちづくりグループ 研究員 阿部 充

1. はじめに

2012年9月20～23日の4日間にわたり台湾を訪れ、「台湾河川日」イベントや講演会、技術交流会に参加し、現地の市民や行政の方々と交流する機会がありましたので、ここに報告します。

2. 行程

今回の訪問の全体行程を表1に示します。次項以降にそれぞれの内容について簡単に説明します。

表1 全体行程

日程	内容	場所
9/20(木)	台湾到着	台南
	海佃小学校訪問	
	台南市社区大学講演会参加 発表：地域と連携した「かわまちづくり」	
9/21(金)	台南市役所にて会議	台南
	高雄市「日本公民治水経験交流 分享座談会」参加 発表：川づくりへの住民参加	高雄
9/22(土)	洲仔湿地、中港湿 地現地視察	高雄
	台湾「川の日」参加	台北
9/23(日)	基隆川及び松山民生社区富民 生態公園 現地視察	台北
	帰国	

3. 一日目：台南市社区大学講演会

松山空港に到着後、高鉄（台湾の新幹線）と在来線を乗り継ぎ、台南まで移動しました。台南では、まず小台江と呼ばれる地元の台南市立海佃小学校の児童による環境研究グループの取り組みについて発表を聞き、意見交換を行いました。海佃小学校の目の前には八田興一が設計したとされる嘉南大圳（かなんたいしゅう）が流れ、子どもたちの活動もまた、この川を中心に行っているとのことでした。ちなみに圳は用水路の意味で、嘉南大圳は日本統治時代の1920年から1930年にかけて嘉義、台南地域の灌漑のために設置された烏山頭ダムを含む用水設備です。

その後夕食を終えて19時半頃から、台南社区大学が主催する講演会に参加し、『地域と連携した「かわまちづくり」』と題して、日本における「かわまちづくり」の背景や仕組み、事例などについて発表しました。



図 海佃小学校の児童との交流

「社区大学」は日本ではコミュニティ・カレッジとの訳が多いですが、満18歳以上であれば誰でも入学でき、自然環境や文化歴史、語学、芸能など様々なコースに分かれて学習できる仕組みで、感覚的にはカルチャースクールに近いと思いました。「社区」は「地域」を意味し、従来の大学と比較して、住民の教養や資質の向上、地域意識の自覚啓発など、地域との結びつきが強いのが特徴とのことでした。1998年に台北市政府の支援により文山社区大学が初めて設立され、現在は台湾全国で85の社区大学があります。台南市社区大学は、その中でも最大規模であるとのことでした。

参加者は20～30人で、質疑応答を含め2時間以上22時近くまで交流しました。日本で講演会が夜の10時まで続くというのはあまりないのではないのでしょうか。すごく熱心だと感じました。参加者は自然環境に対する意識・興味がある方が多かったと思います。



図 会場（海尾朝皇宮）と講演の様子（下）

4. 二日目：高雄市役所講演会

午前中は台南市役所の方から嘉南大圳の事業紹介等をしていただきました。八田興一が作ったシステムが現在も機能しており、大変感謝している、ということをおっしゃっていました。その後、台南市社区大学の拠点となっている台南市立延平國中という中学校を訪問しました。学校内に地域活動の拠点があることは、生徒たちにとっても非常に有益であろうと感じました。

午後は高鉄で高雄市に移動しました。高雄市役所

で行政の方を対象に「川づくりへの住民参加」と題して、日本における歴史的背景や、それを支える仕組みなどについて発表しました。参加者は日本の鶴見川や源兵衛川、ヨーロッパなどのいろんな事例をご存じでしたが、「誰が地域の声を代表するのか」、「住民とどうやって信頼関係を築いていけばいいのか」、など実際にどのように住民参加を進めていくのが課題になっているようでした。これらについては、日本でも場所によっては同様の課題があるだろうと感じました。また、「住民参加で事業を進めるメリットは何か」や「住民は口ばかりで責任をもたない」など住民参加に対して懐疑的な質問・意見もありました。



図 日本公民治水経験交流分享座談會

5. 三日目：「台湾河川日」イベント参加

早朝6時から高雄市の洲仔湿地に案内して頂きました。洲仔湿地は高雄の代表的な観光地である蓮池潭に隣接している湿地で、人工的に造成した公園です。「バン（鳥類）を呼び戻す」をスローガンに、行政や民間、市民が協力して整備・管理を進め、現在はバンの繁殖も確認され、さらに環境教育に利用されるなど、都市の中の貴重な水辺環境として認識されているとのことでした。更に朝食後には、援中港湿地に案内して頂きました。こちらは高雄市が軍から土地を買収し、人工的に整備した湿地公園で、海に近く、潮の干満を利用して海水を引き入れ、干潟、汽水環境を再生していました。開発などで少なくなったマングローブの保護・育生に取り組んでいるとのことでした。



図 援中港湿地（干潟とマングローブ）

午後は、「台湾河川日」のイベントに参加するため、高雄から台北まで高鐵で移動し、さらにMRTで淡水まで移動しました。淡水は、台湾三大河川の一つとされ淡水河の河口にある街です。夕日が美しい街として有名です。

台湾でも、河川愛護の意識を醸成するため、日本の「川の日」のように「台湾河川日」を定め（毎年9月）、様々な活動を行っているとのことでした。

今年「悠悠河川日。戀戀淡水河」というテーマで（戀は恋の旧漢字）、小学生に河川沿いを自転車で走ってもらい、河川の歴史や水質改善、魚類相について知ってもらうというイベントが実施されました。

会場では、梁國新経済部次長や楊偉甫水利署長などの挨拶につづき、上記イベント参加者のゴールを迎えたり、抽選会が実施されたりしました。僭越ながら、私も来賓として紹介され、壇上にのぼり祝辞を述べさせていただきました。

その後、歌手の以莉・高露さんの演奏があり、また、会場では行政やNPO等のブースやたくさんの屋台が並び、多くの市民でにぎわっていました（約千人の市民が訪れたとのことでした）。



図 「台湾河川日」イベントへの参加の様子

6. 四日目：基隆河等現地視察

台湾市内を流れる淡水河の支川、基隆（きーるん）河と松山民生社区富民生態公園という都市の自然公園を案内していただきました。

7. おわりに

今回の訪問を通し、台湾でも都市化に伴って環境悪化などの問題が顕在化しており、特に市民側も行政側も水質悪化に対する問題意識が高いと感じました。都市化に伴う環境悪化は日本の大きな反省点でもあるので、今後も日本の経験を伝えるような交流をしていければと感じました。

また、今回は市民の方と交流し、市民の川を想うパワー、熱意というものを直に感じる事ができ、非常に有意義な経験となりました。社区大学など、台湾社会の仕組みを知ることができたのも良かったです。

最後に、台湾政府経済部水利署の皆様、曾姿霖さんをはじめ社団法人社区大学全国促進会の皆様、通訳していただいた李宜欣先生、劉宇彤さん、事前の様々な調整をしていただいた鍾雨平さんには大変お世話になりました。ここに感謝の意を表します。